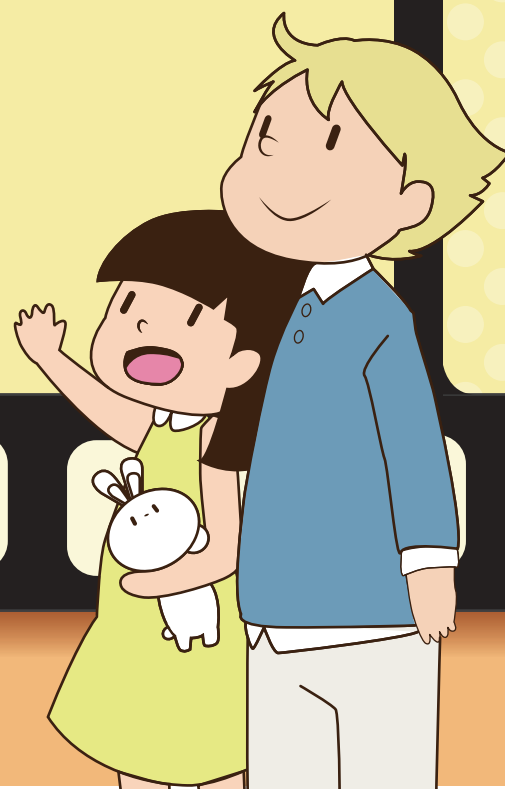


第4回 ユニセフ
One Minute Video コンテスト
最終審査・表彰式



2015 年 8 月 21 日 (金)

主催 ユニセフ One Minute Video コンテスト実行委員会
後援 文部科学省



プログラム

13:00 開会挨拶

審査員の紹介、One Minute Video プロジェクトの紹介

13:10 入賞作品 No.1～10 上映

13:45 入賞作品 No.11～20 上映

14:20 入賞作品 No.21～30 上映

14:55 休憩（～15:05）

15:05 審査中特別イベント

15:25 授賞式

15:05～ 審査中特別イベント「もうひとつの One Minute Video コンテスト」

入賞作品 30 作品の中から審査員の方々が選ぶ作品とは別に、5 つの項目にノミネートをさせていただきました！
その項目ごとに 1 作品を観客賞として表彰します。

One Minute Video とは

One Minute Video は、1 分間の映像制作を通して、厳しい状況におかれている子どもたちなど、世界中の子どもたちが自分たちのメッセージを世界へ向けて発信し、自己表現力を養い、国籍を越えて興味は意見、夢や希望を分かち合う活動です。

One Minute Video プロジェクトは、The European Foundation、The One Minute-Foundation、ユニセフ（国連児童基金）の協力で 2002 年にスタートしました。初めは、紛争などで自分の意見を自由に表現できない子どもたちに、自分の意見や夢を伝えるチャンスを与える目的で始まりました。今では、**様々な背景を持つ数多くの子どもたちが、世界中からこの活動に参加**しています。ユニセフでは現在、アフリカやアジア、中東をはじめ多くの国々でワークショップを支援し、世界的にこのプロジェクトを広めるために活動しています。

入賞作品紹介

タイトル

制作者所属・制作団体名

制作者氏名

| | | |
|-------------------------------|--------------------------|-------------------------|
| 1 命の重さ | 上越教育大学大学院 | 尾石 夏海 |
| 2 Light | 総合学園ヒューマン・アカデミー | 橋本 くる美 |
| 3 1枚の写真から | 長野県上田高等学校 2年8組 A1班 | |
| 4 世界中の子供が豊かに育つために | 駿河台大学 城井ゼミ グループ1 | |
| 5 あなたの幸せを世界の子供たちにも | 京都芸術高等学校 | 村上 茜 |
| 6 捨てる前に… | 城西国際大学 メディア学部 | 古川 昇・安澤 優弥・田口 魅若・太田垣 有人 |
| 7 grow | 文教大学 | 吉水 梢 |
| 8 希望(勉強)の木 | 清教学園高等学校 1年J組 8班 | |
| 9 すべての子どもたちに食べる権利を | 岡崎市立新香山中学校 パソコン部 3年 | |
| 10 balances of rich and poor | 東海大学付属静岡翔洋高等学校 | 岡田 竜磨 |
| 11 Watching | 川口総合高等学校 映像研究部 | |
| 12 かぞく | 東京都立国際高等学校 映像B5班 | |
| 13 From children, Dear _____. | 茨城大学 チーム紅一点 | |
| 14 支え合う気持ち | 城西国際大学 | 黒須 琢人 |
| 15 You are not alone | 文教大学 | 森田 ちあき |
| 16 手 | 山形大学 にのうで | |
| 17 LOOK AT ME!! | 駿河台大学 金ゼミ グループ21 | |
| 18 学びのない世界 | 滝川第二中学校・高等学校 キャンパスナビゲーター | |
| 19 幸せな生き方 | 岐阜市立東長良中学校 3年1組 | |
| 20 Can't | 文教大学 | 中澤 平 |
| 21 hands | 茨城大学 WC | |
| 22 We want to study. | 東海大学 | 猪俣 可菜 |
| 23 BOX | 福島県立福島西高等学校 | 佐藤 夏季 |
| 24 その豊かさを子供たちへ | 三重県立飯野高等学校 | 伊藤 将志 |
| 25 children want to study | 東海大学 | 岩川 奈那美 |
| 26 HAPPY | 東京工芸大学 | 齋藤 咲久楽 |
| 27 flower of affection | 東北電子専門学校 | 本間 梨紗 |
| 28 手を差し出せる人 | 京都芸術高等学校 | 傘 美里亜 |
| 29 Happiness | 専門学校穴吹デザインカレッジ | 大木 ゆうの |
| 30 child's hope | 東海大学 | 千葉 山百合 |

入賞作品 No.1~10

1

命の重さ

上越教育大学大学院

尾石 夏海



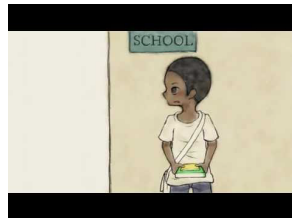
命は何ものにも代え難いはずですが、世界では生まれた国や環境によって、子どもが不当に労働を強いられ、他国の富を支える存在になっている現実があります。同じ子どもでありながら、生きる権利がないがしろにされている事実に対して、深い悲しみと怒りを覚えました。本作品は、「命の天秤があるとしたら…」と仮定し、最後には同じ子どもが天秤に乗るにもかかわらず、命の重に差がある現実の不条理を表現しました。

2

Light

総合学園ヒューマン・アカデミー

橋本 くる美



苦しんでいる、悲しんでいる子どもたちが少しでも幸せな暮らしができるように、という思いを込めて制作しました。『子ども』の比喩表現で芽を、『幸せ』の比喩表現で光を描きました。

3

1枚の写真から

長野県上田高等学校

2年8組A1班

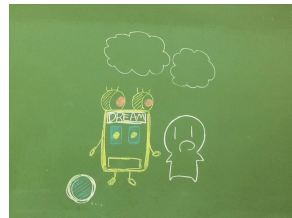


分かりやすいように、かわいらしい絵で表情豊かにした。ストーリーの展開を不自然のないようにつなげました。

4

世界中の子供が豊かに育つために

駿河台大学 城井ゼミ グループ1



子ども達にとってのやさしい世界とは何か、子ども達に必要な幸せとは何か考えました。アニメーションで作ることによって、優しく感じ取れるような作品にしようと思いました。

5

あなたの幸せを世界の子供たちにも

京都芸術高等学校

村上 茜



「私たちの身近な幸せは、当たり前じゃない」というメッセージを伝えたくて作りました。工夫した点は、すべてコマ撮りで作り、絵本のような温かみを表現したことです。

6

捨てる前に…

城西国際大学 メディア学部 古川 昇・安澤 優弥・田口 魅若・太田垣 有人



自分が要らないと思っているモノでも誰かが必要としているかもしれません。「捨てる前に何か役に立たないのか？」と考えてもらいたいと考え、この作品を制作しました。

7

grow

文教大学

吉水 梢



子どもを芋虫に、成長過程を花に置き換え制作しました。私達は当たり前のように色々な物を与えられて、育ってきました。しかし、この世界は、当たり前が与えられない子ども達が大半です。その当たり前を分け合えたら助けることができるということを作品にしてみました。

8

希望(勉強)の木

清教学園高等学校 1年J組8班



世界を見渡すと教育を受ける環境は、まだまだ発展途上中のところが多く、それは木の苗のようなものです。私たちは、子どもを中心に大人たちの協力で太く真つすぐ伸びる木のように教育を受ける環境を確かにしたいという意図で制作しました。

9

すべての子どもたちに食べる権利を

岡崎市立新山中学校 パソコン部3年

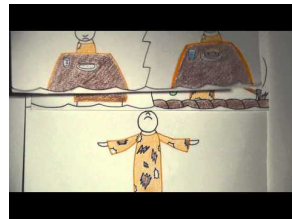


国によって食べ物を十分に食べられる国と、そうでない国があります。その格差に気づき、「助け合う心が大切だ」ということを伝えたいと考えました。

10

balances of rich and poor

東海大学付属静岡翔洋高等学校 岡田 竜磨



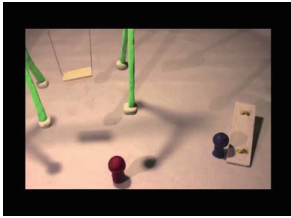
以前の私は「勉強は面倒だからできればやりたくない」と思っていました。しかし、世界では、貧しくて家の手伝いや仕事をしなければならず、「勉強をしたほうがまだ楽だ」と考えても、勉強すらできない子どもたちがたくさんいることを知り、驚きました。日本国内での貧困とはまた違った『世界の貧困』を知ってもらいたいと考えました。

入賞作品 No.11～20



Watching

川口総合高等学校 映像研究部



子どもの権利条約の4つの柱を題材とし、クレイアニメーションで表現しました。“生きる”=“命” “育つ”=“遊具”、“守られる”=“盾”、“参加”=“人の輪”を人の手などの大きな力で奪っていきます。



かぞく

東京都立国際高等学校 映像 B5 班

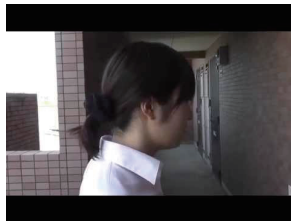


私たちの作品は、父、母、子の三人を三足の靴で表しました。並べた両親の靴がそれぞれの方向に動き出します。子どもが親の都合で振り回されて、寂しい思いをすることがないようにという思いを込めました。家族の大切さは、きっと世界共通です。



From children, Dear ____.

茨城大学 チーム紅一点

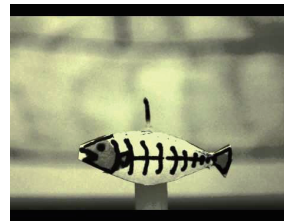


テーマは「子どもたちからの SOS に気づいて」。児童虐待の発覚件数は年々増加しており、虐待によって命を落とす子どもも後を絶ちません。そこで、このような児童虐待の問題に気付いたとき、子どもを助けるために何か一歩行動にふみだしてほしいという思いでこの作品を制作しました。



支え合う気持ち

城西国際大学 黒須 琢人

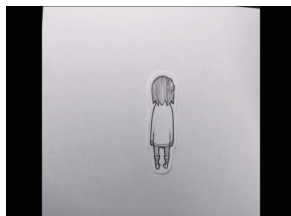


子どもは一人では生きていけない。生きていくためには大人の思いやる気持ち、大切にしようとする気持ち、支えていこうと思う気持ち。子どもがどのような立場で生きているか。大人は子どもからのどのような立場にいるのか、大人がいなければ子どもは生きていけない。子どもの立場、大人の立場。子どもが生きていくにはどうすれば良いのか。子どもは大人よりとてもとても弱い生き物。だから、支えてほしい。そのような想いを込めた作品です。



You are not alone

文教大学 森田 ちあき



親や家族から暴力や心に傷を負われるなど、虐待されている子どもが増えています。あなたは一人じゃないから、周りの人を頼っていいんだ、ということをこの作品で伝えられたらいいです。



手

山形大学 にのうで



子どもの権利条約の4つの柱を、四部構成にしてまとめました。最後に私たちが伝えたいメッセージが出てきます。アニメーションと実写の「手」を組み合わせることで、簡易かつリアリティを出したところがポイントです。「手」が出てくるシーン以外には効果音を入れず強調しました。登場人物の表情にも注目してくださいと嬉しいです。



LOOK AT ME!!

駿河台大学 金ゼミ グループ 21



テーマは「子どもは未来」です。未来を担う子どもは大人を見て学び、成長します。見られている大人は子どもをみていますか？



学びのない世界

滝川第二中学校・高等学校 キャンパスナビゲーター



私たちは当たり前のように学校に行き、当たり前のように勉強しています。でも、グローバルな視点で考えると、そんな私たちの日常の当たり前は、決して当たり前ではないのだと感じました。ある日、この生活が奪われたらと思うと、他人事には思えなくなりました。当たりの幸せをかみしめ、しっかり考えてみたいと思い、この作品を制作しました。



幸せな生き方

岐阜市立東長良中学校 3年1組

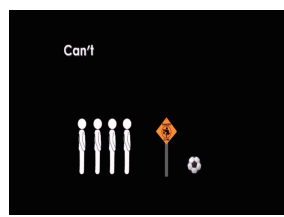


「幸せ」は、教えられるものだと思います。家族と仲よしであることが「幸せ」かもしれないし、たくさん食べて、たくさん遊んで、ということが幸せかもしれません。この男の子は、戦うことが幸せだと教えられたのでしょうか。



Can't

文教大学 中澤 平



遊ぶ、食べる、病気を治療する、ことは私たちにとって当たり前だと思っている「できること」です。しかし、戦場や貧困の国の子どもたちにとって「できること」ではありません。過酷な地域で生まれた子どもたちの現状をシンプルながらも奥深く表現しました。

入賞作品 No.21～30



hands

茨城大学 WC



子どもの育つ権利をテーマに、アニメーションで作成しました。子どもたちが無理やり働かされている状況を伝え、子どもたちの手が掴むべきものは何なのか、ということを大人たちに訴える作品になっています。



We want to study.

東海大学 猪俣 可菜

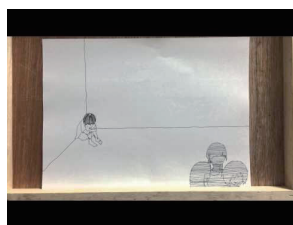


貧しくて働かなければならない、また学校に行きたくても行けない子どもたちが発展途上国には、たくさんいることを考えてもらいたいと思い、制作しました。黒板イラストレーションの質感にこだわり撮影しました。学校のシーンでは、子どもたちの声を入れるところ、言葉を失っているところは、少しBGMを小さくすることなどを工夫しました。



BOX

福島県立福島西高等学校 佐藤 夏季



生まれるのを心待ちにしている胎児。しかし、生まれてくる環境は決して良いとは限りません。自分の生きている世界しか知らない子どもにとって、そこは外が見られない箱の中です。良い環境の子どもはその箱の中を覗き込めますが、何もできません。そしてお互いに、それが当たり前だと思っているのです。生まれるのを心待ちにしていた胎児にとって、これで世界はいいのでしょうか？



その豊かさを子供たちへ

三重県立飯野高等学校 伊藤 将志



水や食べ物、教育などを受けられない子どもがいる一方、有り余るほど受けている人もいます。そんな状況に対し、少しでも分け合えたらと考え、この作品を制作しました。



children want to study

東海大学 岩川 奈那美



世界中の学校に行きたくても行けない子どもたちのために私たちの身近にある標識を利用して“子どもたちに教育を受けさせよう”という気持ちを込めて表現しました。



HAPPY

東京工芸大学 齋藤 咲久奈



今回のテーマ「すべての子どもにやさしい世界を～みんなの約束子どもの権利条約～」を考え、私はすべての子どもにやさしい世界を人種の違う子ども達が一つの木を育てる場面で表現しました。子どもたちは、小さいけれど、小さい芽を大きな木に育てることが出来ます。子どもたちには大きな可能性があるのです。そんな意味を込めて、優しい暖かい映像作品を作りました。



flower of affection

東北電子専門学校 本間 梨紗



大人から子どもへと続いていく愛情を花に例えて表現しました。できるだけ見やすく、シンプルになるように工夫しています。



手を差し出せる人

京都芸術高等学校 傘 美里亜

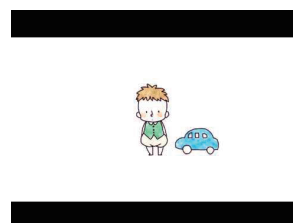


障がいのある子の存在がもっと身近なものとして感じられるように、この作品を制作しました。色や服、撮影のしかたなど様々なところで工夫しています。



Happiness

専門学校穴吹デザインカレッジ 大木 ゆうの

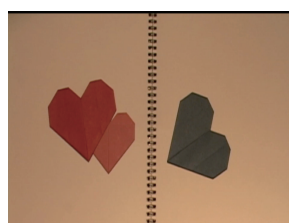


子どもの幸せについて自分なりに考えてみました。



child's hope

東海大学 千葉 山百合



登場人物や背景を文房具で統一し、関係性をわかりやすくするよう工夫しました。また、画面の暗さや暗転の演出で、理不尽な暴力に対する子どもの感情が表せるよう考えました。

